教育実習カルテ　教育実践での学びをポートフォリオに

教員養成課程では、**教職入門実習**（1回生必修）、**基本実習**（3回生、一部4回生必修）、**併修実習**（4回生選択）と、**学校インターンシップ活動**を通じて、4年間の中で、教育実践力を培っていきます。活動の都度、Live Campusのポートフォリオを活用し、省察することによって、学校園での体験を通して学んだこと・考えたことを、大学の学びに活かしていきましょう。

教育実習の目標

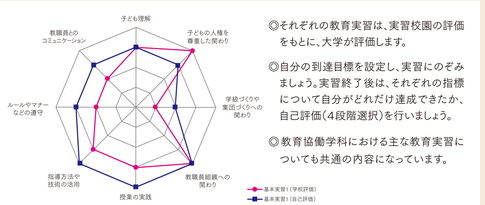
［幼児・児童・生徒への関わりと理解］
子ども理解・子どもの人権を尊重した関わり

［組織や集団への関わりと理解］
学級づくりや集団づくりへの関わり・教職員組織への関わり

［学習指導］
授業の実践・指導方法や技術の活用

［実習生としての信頼性］
ルールやマナーなどの遵守・教職員とのコミュニケーション

教育実習カルテは、それぞれの教育実習に沿って作成しています。
ここでは、教員養成課程の基本実習（小・中・高）用の教育実習カルテを例示します。



◎それぞれの教育実習は、実習校園の評価をもとに、大学が評価します。

◎自分の到達目標を設定し、実習にのぞみましょう。実習終了後は、それぞれの指標について自分がどれだけ達成できたか、自己評価（4段階選択）を行いましょう。

◎教育協働学科における主な教育実習についても共通の内容になっています。

学校現場で学ぶこと

ポートフォリオをもとに大学の指導教員と面談

教師になるために必要な資質能力を身に付ける

生涯を通して日々成長を続ける教師であるためには、自らの意思によって自らの学びをデザインする力が必要となります。本学では、このような自らを育てる姿勢を培うため、履修カルテの活用を推進しています。履修カルテによって、これからの学修の目標を設定したり、学修の成果を蓄積したりしていくことで、自らの成長をふりかえり、次の目標の設定へと繋げることができます。

また、履修カルテでは、ふりかえりと目標の設定を効果的に行うことができるよう、教職に求められる資質能力を5つの指標と30の項目で提示しています。
5つの指標と30の項目を手掛かりに、教科・教職科目、ボランティア活動等を通して学んだことをふりかえり、自らの到達点と課題を明らかにしましょう。

5つの指標　30の項目

1. 教職に必要な素養

- 教育の理念や教育に関する歴史及び思想、並びに教職の意義、教員の職務内容についての基礎的な理解ができている。
- 教職員や校外の専門家、家庭や地域等を含めた他者と連携し、協働して課題を解決することの重要性を理解している。
- 人権意識を有し、学校教育に関する社会的、制度的事項、学校安全に関する基礎的な知識や技能を身に付けている。
- 幼児・児童・生徒を自律的な学習者として導くことの意義を理解している。

①教育の理念・教育史・思想の理解
②教職の意義
③人権教育
④他者との連携・協力
⑤学校教育の社会的・制度的・経営の理解・学校安全
⑥自律的な学習

2. 指導内容の理解と実践力

- 幼稚園の保育又は小学校の各教科及び所属するコースに対応する中学校・高等学校の教科や教科外の指導に必要な専門的知識・技能の基本を身に付けている。
- 学校教育における教育課程編成の意義と基本原理を理解し、教職員の配置や施設の維持管理の観点や教科横断的な視点をもって組織的に教育課程を編成の上、実施するとともに、学校の実態に応じてカリキュラム・マネジメントを行うことの重要性を理解している。
- 子どもの興味・関心を引き出す教材研究を行いながら、学習指導や授業の設計、実践、評価、改善を行う仕組みを構想することができる。
- 学習環境の整備ができ、また、アクティブ・ラーニングを取り入れた「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実に向けた学習者を中心とする指導計画の立案や授業づくりができる。

⑦各教科など
⑧教科書・学習指導要領
⑨学習指導法
⑩基礎知識・基礎学力
⑪教育課程の編成及び方法に関する基礎理論・知識
⑫授業分析
⑬教材研究・指導計画
⑭指導技術・態度
⑮アクティブ・ラーニングについての理解
⑯アクティブ・ラーニングを取り入れた指導
⑰学習環境の整備

3. 子どもへの対応の理解

- 生徒指導の意義や理論を理解し、他の教職員や専門家等と連携し、児童生徒に応じた指導や集団指導を実践することができる。
- 教育相談の意義や理論と幼児・児童・生徒を支援するために必要となる基礎的知識を有し、組織的な取り組みや学外の専門家等と連携する重要性を理解している。
- 進路指導やキャリア教育の意義を理解し、これらの視点からの授業改善やカウンセリングの充実に必要となる基礎的な知識を身に付けている。
- 子どもの心身の発達と学習の過程についての基礎的な理解ができている。
- 外国にルーツのある子どもや障がいのある子どもなど、特別な配慮や支援を必要とする子どもの特性や社会的包摂の理念を理解したうえで、学校教員として対応するために必要となる知識や支援の方法を身に付けている。
- 道徳教育の理論及び指導法、特別活動の指導法及び総合的な学習や探究の時間の指導法について理解している。

⑱生徒指導
⑲学習集団の形成
⑳幼児・児童・生徒の理解
㉑個別・集団指導
㉒進路指導・キャリア教育
㉓子どもの発達に関する理解
㉔特別な支援を必要とする子どもへの対応
㉕道徳教育・特別活動・総合的な学習の時間

4. ICTや教育データを利活用する力

- 学校におけるICTの活用の意義を理解し、授業や校務等にICTを活用するとともに、幼児・児童・生徒のICT活用能力を育成するための授業を構想することができる。
- 「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実に向けて、幼児・児童・生徒の学習の改善を図るため教育データを適切に活用することができる。

㉖ICT活用
㉗教育データの活用

5. 教職力量を自らひらく力

- 実践的な教育活動に参画し、幼児・児童・生徒と積極的にコミュニケーションをとることができる。
- 自らの学修を記録などに基づいて省察し、目標達成に向けて成長しようとする意欲を身に付けている。
- 生涯にわたる教師の成長の特性と学習のあり方を理解の上、学び続ける教師としての姿勢や態度を身に付けている。

㉘社会人としての基本
㉙子どもに対する態度
㉚学び続ける力

養護教諭向けの「4つの指標」と「36の項目」は、別に設定されています。

国立大学法人 大阪教育大学
令和6年　入学生用

教師になるための学びの履歴と教育実習

□「ポートフォリオ」（履修カルテ、教育実習カルテ）とは？　P1・6
□「4年間積み上げ型」の教育実習とは？　P2
□ 卒業前の必修科目「教職実践実習」とは？　P3
□ 教師になるために必要な資質能力とは？　P7

履修カルテ　あなたの学びの軌跡をポートフォリオに

ポートフォリオで目標設定と自己評価を進めよう

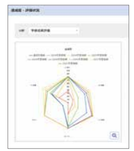
Live Campusのポートフォリオにある「学修成果シート」と「履修カルテ」などを利用して、あなたの4年間の学びの軌跡を作りましょう。
「学修成果シート」には、半期ごとに自分の学修目標を立てて、記入しましょう。科目を修得すればその科目ごとにどのような学びがあったかをふりかえり、「履修カルテ（科目の履修状況）」に記録しましょう。学位プログラムの目標にどの程度到達しつつあるかを「成績ダッシュボード」のレーダーチャートで確認し、自分の強みや課題を自己分析しましょう。教員養成課程と教員免許取得を希望する教育協働学科の学生は、「履修カルテ（自己評価）」を活用して、教職に求められる資質能力の修得状況を確認しましょう。
4回生の必修科目「教職実践演習」ではこれらの履歴を用いて4年間の学びを指導教員と一緒にふりかえります。
このように、履修カルテは、学位プログラムが定めた専門性や実践力の修得に向けて、目標設定と自己評価を促すことであなたの学びを支援します。

学修成果シート

■目標設定と指導教員のコメント

成績ダッシュボード

■達成度・評価状況



ポートフォリオで探究と省察を深めよう

教師ひいては自律した大人になるための学びには、決められた学修目標の達成に向かう学び以外にも、自分自身の問題関心に基づいて探究と省察を繰り返すという学びもあります。探究とは、「今の子どもたちは主体的に学ぶことができていない。子どもたちが学ぶ必要性を感じながら学ぶためには、どんな授業をしたらいいのか。次の単元ではこんなふうに導入を工夫して、子どもたちのモチベーションを高めよう」といったように、子どもたちのリアルな状態をみとって問題を発見し、その問題を探究するテーマを掲げて実際に試行錯誤することです。ただし、試行錯誤しているうちに、自分で設定した探究テーマに疑問が沸いてくることがあります。たとえば「子どもたちのモチベーションを高めるためには学びの導入を工夫しなければならないと思っていたけど、本当にそうかな」といったように。このように自分の考えに対して「本当にそうかな」と考えることを省察と呼びます。
ポートフォリオは、試行錯誤の活動を記録に残し、時には探究テーマそれ自体を検討することを通して、探究と省察を支援します。

教職実践演習とは

教員免許状取得の必修科目

教職実践演習とは、教員免許状取得の必修科目として義務づけられているものです。

授業の内容

教師として求められる基礎的事項として、下記の4事項について、学生自身が自己の状況を確認するための活動を含みます。

1. 使命感や責任感、教育的愛情などに関する事項
2. 社会性や対人関係能力に関する事項
3. 子ども理解や学級経営に関する事項
4. 教科・保育内容等の指導力に関する事項

教職生活の円滑なスタートを

この科目は、皆さんが教師になる上で、自分にとって何が課題であるのかを自覚し、必要に応じて不足している知識や技能等を補い、その定着を図ることを目的としています。4年間で身に付けた資質能力が、教師として最小限必要な資質能力として有機的に統合・形成されたかについて最終的に確認し、教職生活の円滑なスタートを支援するものです。

授業の方法

授業では、下記の方法を必要に応じて適切に取り入れます。

1. フィールドワーク、グループ討議などの演習や実習、模擬授業
2. 役割演技（ロールプレイング）、事例研究等の授業方法
3. 現職の教員又は教員勤務経験者を講師とした授業等

POINT

学校インターンシップと教育実習による4年間の学校現場での実践的学修（小学校教育（夜間） 5年専攻を除く）

併修実習（選択）

時期…5月～11月［2週間］

学校インターンシップ（選択）

時期…2月～1月［30時間］

※インターンシップ受入校園は、2回生と同様

（注）一部の専攻・コースでは、4回生時にも基本実習を行います。

「チーム学校」の役割を実践的に学ぶ

学校インターンシップでは、教育協働学科の「教育コラボレーション演習」の受講生と協力して「チーム学校」の役割を実践的に学ぶことができます。

基本実習で身に付けた実践力にみがきをかける

基本実習後の学校インターンシップでは、特に、幼児・児童・生徒への指導や支援を充実させることができます。先生方の仕事の補助もきめ細やかに行うことができます。教師の卵としての力量を身に着ける最終仕上げの段階です。教員になることのモチベーションをさらに高めます。

4回生

基本実習（必修）

時期…9月［3週間］ ※一部の専攻・コースでは、実習期間が異なる

実習校園…附属学校、公立幼・小・中学校・高校ほか

学校インターンシップ（選択）

※インターンシップ受入校園及び時期は、2回生と同様

学習指導と授業実践力を身に付ける

【必修】学校教育教員養成課程の全専攻及び養護教諭養成課程

幼児・児童・生徒の実態に応じた教材研究や授業づくりを経験することで、実践的な指導力を身に付けるとともに、教職の専門性を高めます。また、事後指導で省察を行うことで基本実習での学習は十分な後の教職への力と自信になります。

3回生

学校インターンシップ（必修）

時期…2月～1月［60時間］

インターンシップ受入校園…大阪府をはじめ、近隣県の公立幼・小・中・高・特別支援学校、附属学校ほか

基本実習に備えて実践の基礎を身に付ける

【必修】学校教育教員養成課程の全専攻及び養護教諭養成課程

基本実習前の学校インターンシップは基本実習の準備段階と言えます。幼児・児童・生徒との関わりを深め、学級でのルールや幼児・児童・生徒の様子を理解し、先生方の仕事の補助をします。また、必修科目「教職専門性と省察」により、これまでの体験を省察するとともに、省察の基礎的理解や技法を学びます。

2回生

教職入門実習
（必修・教職のための省察入門で実施）

時期…6月［1日間］

実習校園…柏原市・八尾市・東大阪市・守口市・大阪市などの公立幼・小・中学校

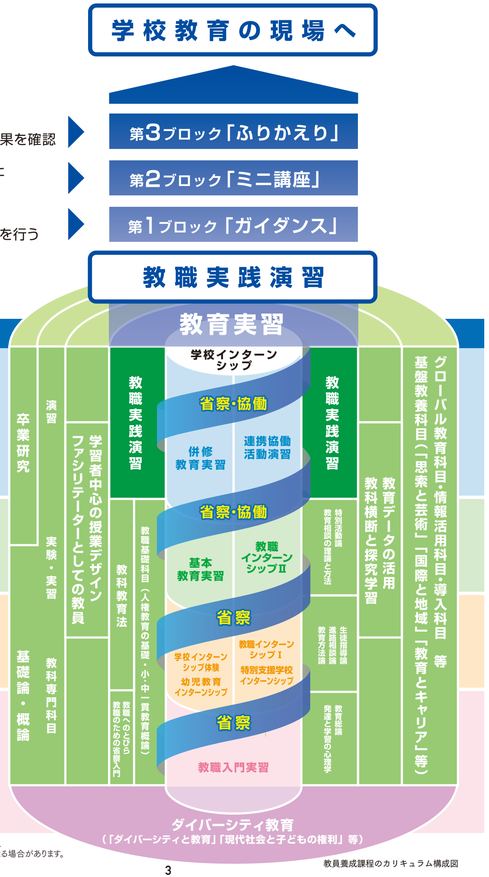
教わる側から教える側へ視点を転換する

【必修】学校教育教員養成課程の全専攻及び養護教諭養成課程

教師の視点で子どもに関わる経験をし、学校現場の教師の姿を見て、教師についての理解を深めると同時に子どもへの関わり方を学びます。活動後の省察により得られた課題を学校インターンシップでさらに追究します。

1回生

※学校インターンシップは、所属する専攻や履修する回生などによって開講科目が異なります。



教職実践演習のカリキュラム構成図

※授業科目名称及び開講回生は、所属する専攻・コースにより異なる場合があります。

教育協働学科

教員免許状取得を希望する学生は、卒業要件を満たすための科目以外に教員免許状を取得するための科目及び教職実践演習の履修が必要です。

教育実習は、4回生で、附属高等学校等において行っています。

小学校教育（夜間）5年専攻

5回生	教育実習Ⅱ（必修）		
4回生	教育実習Ⅰ（必修）	学校インターンシップⅡ	選択
3回生		学校インターンシップⅠ	選択
2回生		学校インターンシップ体験	必修
1回生	教職入門実習（必修・教職のための省察入門で実施）		

POINT

学びの確認と省察/指導教員との面談

>>> P5「ポートフォリオと指導教員」をご覧ください。

教職実践に向けた学生1人1人の個別課題の克服

学びの確認と省察

教職専門性と省察 ⟷

教職のための省察入門 ⟷

教科・教職科目・教育実習

学校インターンシップ

ボランティア活動

等

ポートフォリオによる学びの履歴の蓄積

省察

面談　各学年 年2回（春・秋）

4回生

3回生

2回生

1回生

MESSAGE　ポートフォリオと指導教員

■ポートフォリオ（履修カルテ）を用いた指導や助言は、指導教員との面談で行います。

■指導教員は、履修カルテを活用し、学生と個人面談を行い、皆さんが良好に大学生活を送れるように支援しています。

■指導教員とは、入学から卒業までの間、継続的に面談を行うこととなっていますから、皆さんも積極的に相談をし、4回生の「教職実践演習」受講時には、自分の強みと課題を自己評価できるようにしましょう。

■**そのためにも、1回生の時から、ポートフォリオに自分の学びをしっかりと記入しましょう。**

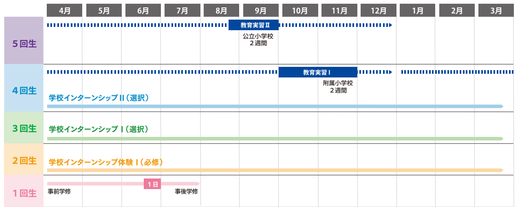
教育実習カレンダー

学校教育教員養成課程（小学校教育（夜間）5年専攻を除く）・養護教諭養成課程

実習期間

インターンシップ活動期間

（注）一部の専攻・コースでは、4回生時にも基本実習を行います。

教育協働学科

小学校教育（夜間）5年専攻